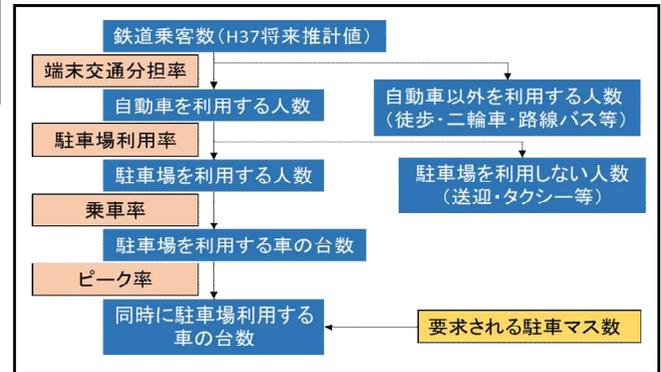


# 敦賀駅周辺における地域活性化のための基盤整備検討調査

## 【別添2】調査成果の報告のポンチ絵

○（調査の背景・目的）平成34年度の北陸新幹線敦賀開業に向け、整備新幹線駅に付随した都市施設として駅周辺駐車場等の整備を行うため、新幹線開業後の敦賀駅における駐車場需要について、既設駐車場の実態調査や将来乗客数予測などから、将来の駐車場需要を予測し、駅西側駐車場、バスターミナル等の概略設計を行った。

（調査の手順）



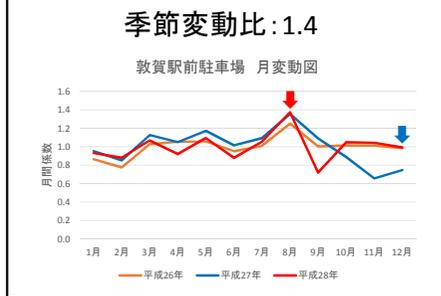
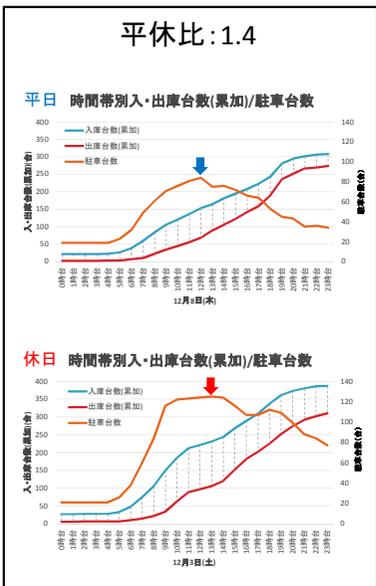
### 調査成果

項目	H37 在来線	H37 新幹線等	単位
鉄道乗客数	3,222	1,428	人/日
自動車を利用する人数	1,134	1,028	人/日
駐車場を利用する人数	440	399	人/日
駐車場を利用する車の台数	367	333	台/日
要求される駐車マス数	117	106	台
合計		223	台

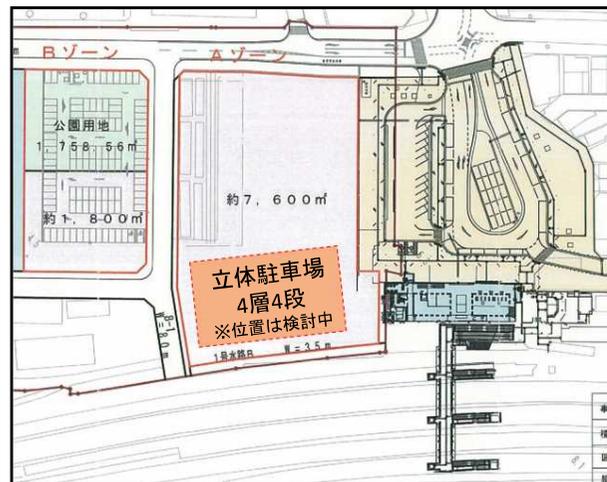
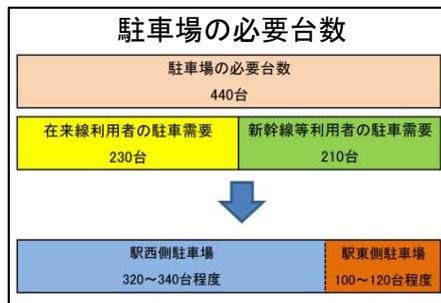
パラメータ	備考
端末交通分担率	在来線 35.2% 新幹線・優等列車 72.0% 「福井都市圏PT調査」より推定 (新幹線・優等列車の端末交通分担率については、駅勢圏に嶺南地区及び嶺北の一部を含めて設定)
駐車場利用率	38.8% 「駅前駐車場利用実態現地調査」より算定
乗車率(人/台)	1.2 「福井都市圏PT調査」より引用
ピーク率	31.9% 「既設駐車場利用実態調査」より算定

### 基盤整備の見込み・方向性

- ・駅西側の駐車場について、白銀駐車場に約50台の駅利用者への供給が見込めることから、駅西側の敦賀駅に隣接した駐車場（立体駐車場）の整備においては、その部分を考慮し、整備規模を算定する必要がある。
- ・駅東側の駐車場については、新幹線駅前広場と隣接して駐車場を整備した場合、予定地の地理的条件（新幹線駅舎と木ノ芽川との区域）から、100～120台程度整備が可能と見込まれている。
- ・立体駐車場は平成29年度から平成30年度において施工予定



駐車場に要求される駐車容量  
(平休比) (季節変動比)  
 $223 \times 1.4 \times 1.4 \approx 440$  (台)



駅西側駐車場、大型バスターミナル等の概略設計  
概略設計を行った。

### 今後の課題

- 北陸新幹線敦賀開業後の敦賀駅における駐車場の需要予測を行ったところであるが、駅西側で敦賀駅に隣接する駐車場（立体駐車場）の整備にあたっては、次のことが今後の検討課題になると考えられる。
- ・立体駐車場としての独立採算性を踏まえた適切な駐車台数の設定
  - ・敦賀駅西地区土地活用エリアの施設との接続及び駐車場の配分
  - ・駅前通りとの回遊性創出など白銀駐車場との連携及び役割分担
  - ・敦賀駅や敦賀駅交流施設とのアクセス性の向上の具体策
  - ・駐輪場(サイクルステーション等を含む)の合築による二次交通機能の強化

敦賀駅周辺における地域活性化のための基盤整備検討調査			
調査主体	福井県敦賀市		
対象地域	福井県敦賀市	対象となる基盤整備分野	駐車場

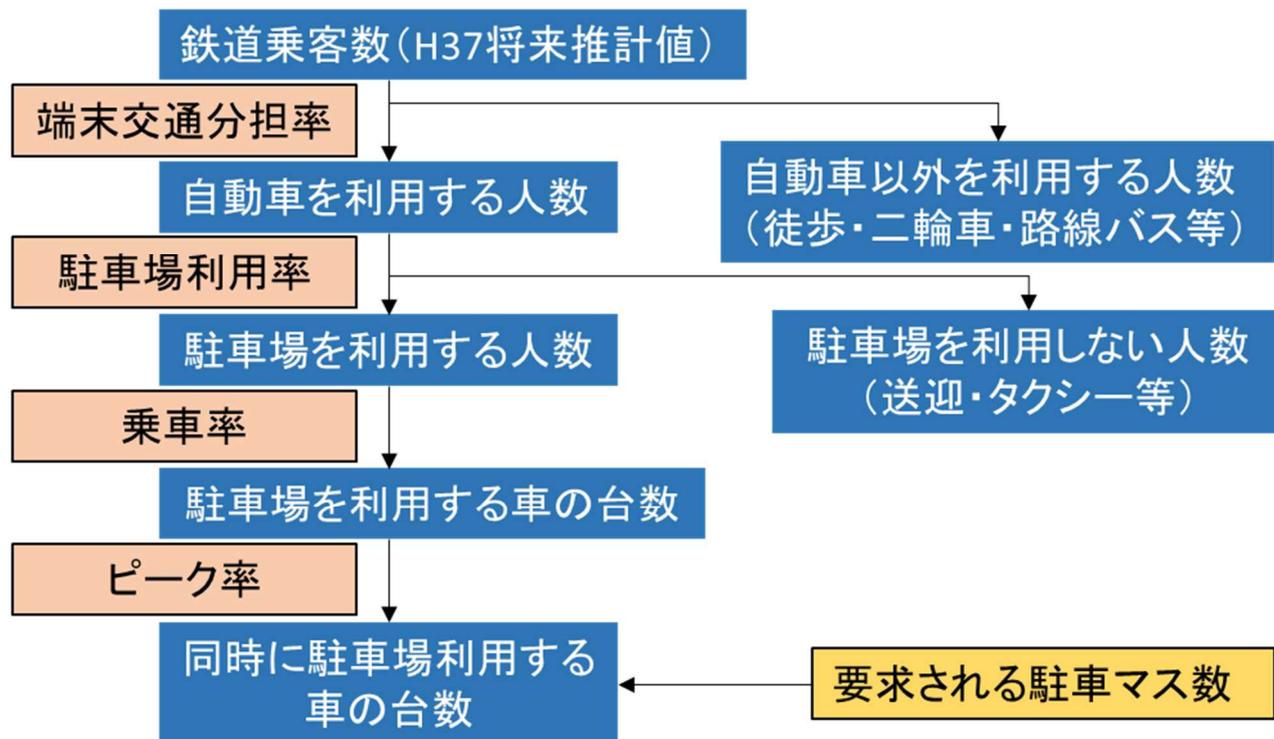
1. 調査の背景と目的

平成34年度の北陸新幹線敦賀開業に向け、整備新幹線駅に付随した都市施設として駅周辺駐車場等の整備を行うため、新幹線開業後の敦賀駅における駐車場需要について、既設駐車場の実態調査や将来乗客数予測などから、将来の駐車場需要を予測した。また、駅西側駐車場、バスターミナル等の概略設計を行った。

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

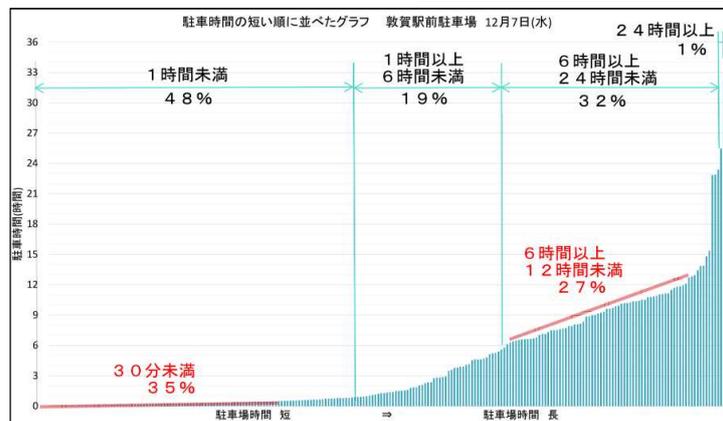
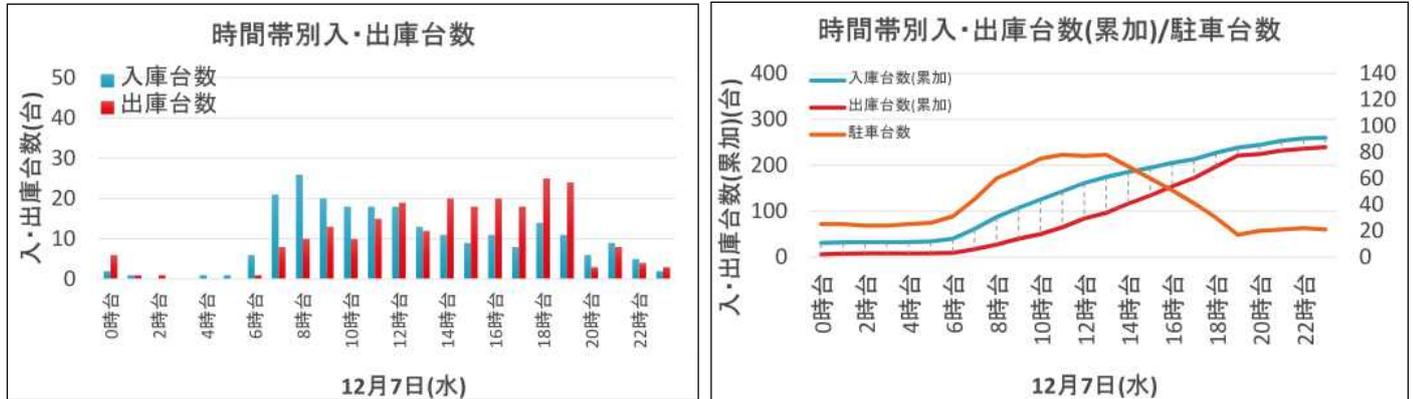
以下のフローに従って将来の需要予測を行った。



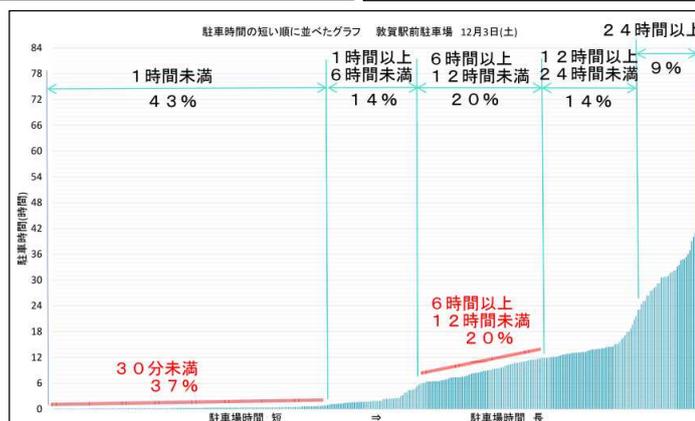
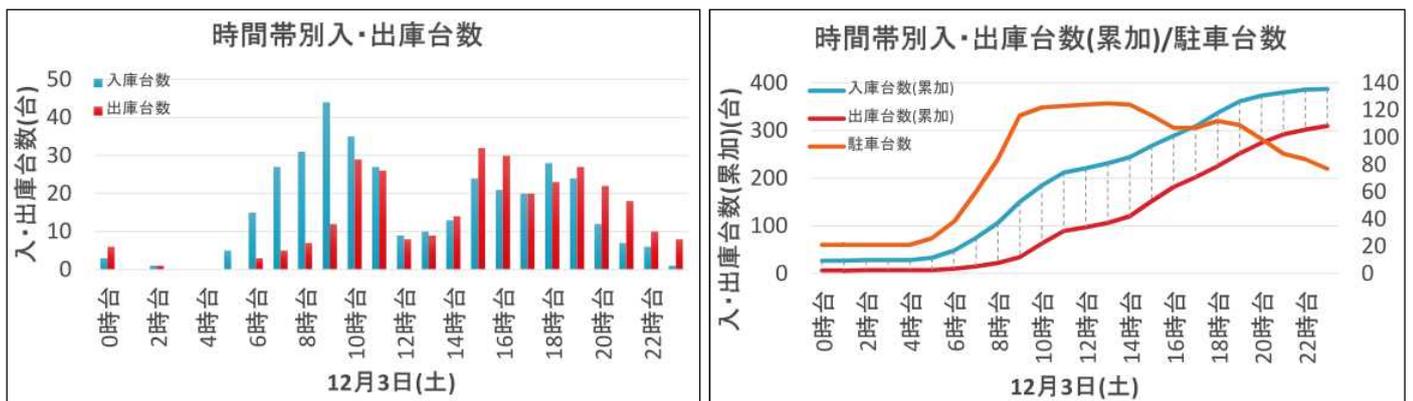
まず、将来の需要予測に用いる駐車場利用率を算定するため、「市営敦賀駅前駐車場」を対象に、その利用実態について駐車券を整理分析することにより調査した。

1) 平日と休日における1日の利用状況

①【平日】 12月7日(水) 入庫台数：231台



②【休日】 12月3日(土) 入庫台数：363台

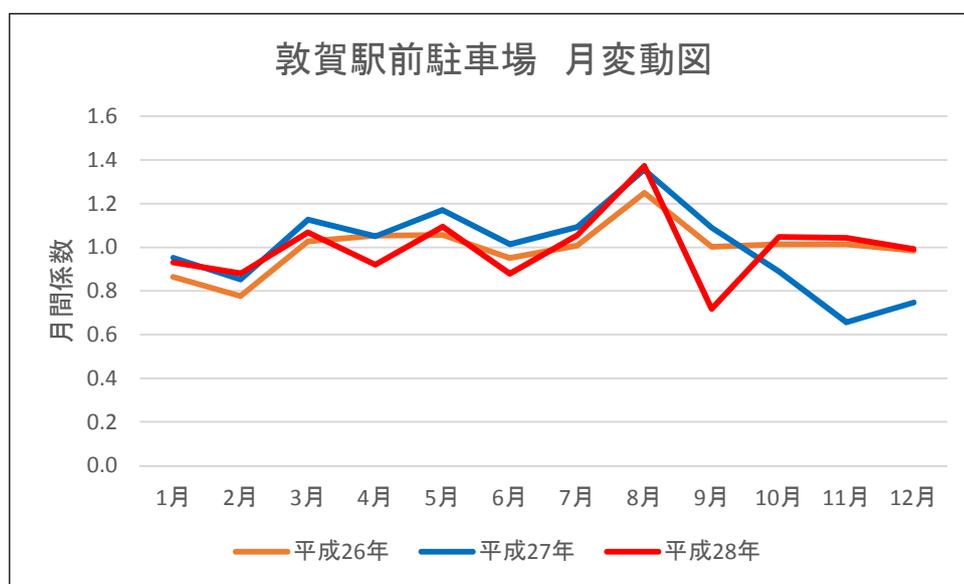


### ③ 平日と休日における利用実態調査のまとめ

- 平日と休日では、休日の方が利用者は多く、平日の約1.4倍の利用需要がある。
- 平日は1時間以内の短時間駐車が多く過半数を占めているが、休日ではその割合は10%程度減少し、長時間の利用者が多くなる傾向にある。
- 休日は、6時間以上の駐車が43%と多く、休日の日中は、ほぼ満車となっている。
- 休日の夜間の駐車台数が77台と、平日と比べると突出して多い。これらは、鉄道利用の端末交通として自動車を利用していると推測される。

### 2) 月変動特性

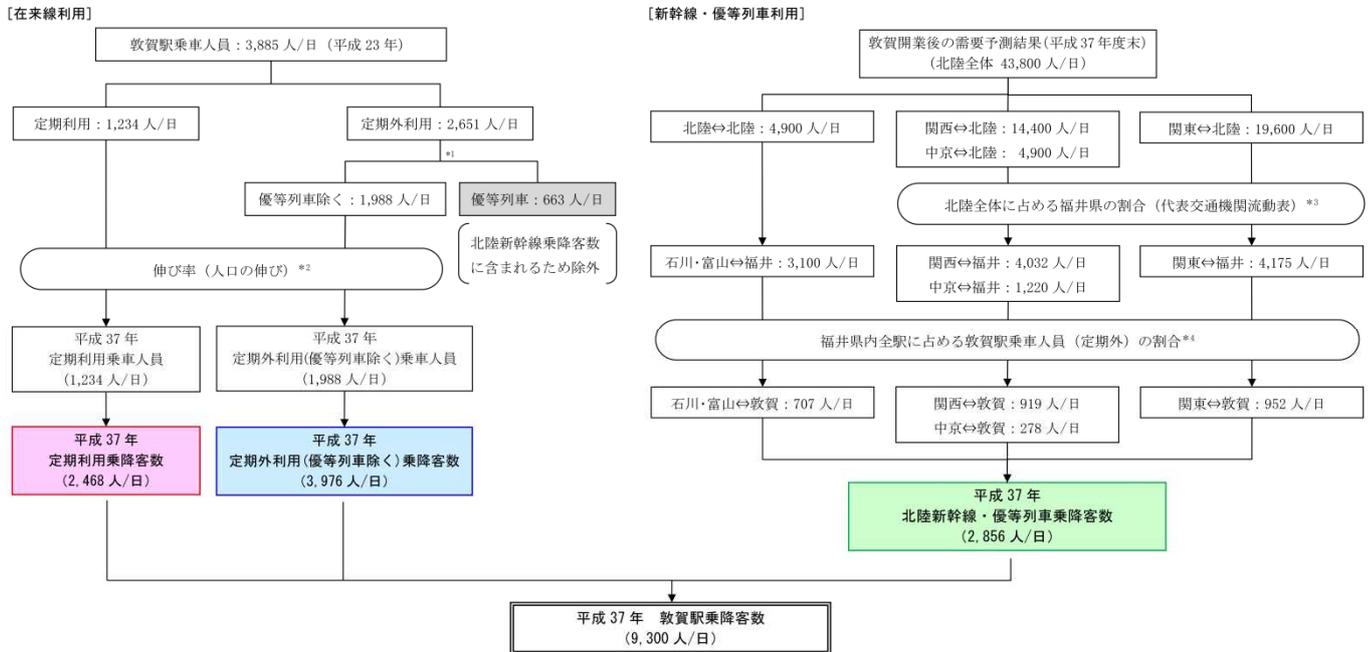
過去3カ年の利用実績から、1年を周期とする月の季節変動を示した。



- 直近の3年間は類似した傾向を示していることがわかった。
- 8月には、月平均より約1.4倍の駐車場需要（季節変動）があった。
- 駐車券を用いて分析を行った平成28年12月は、平均的な利用者数であった。

### 3) 北陸新幹線敦賀開業後の乗客数予測について

新幹線開業後の敦賀駅の乗降客数について、平成24年の整備新幹線小委員会での予測をもとに、乗客数は1日約4,650人(乗降客約9,300人)とした。また、乗客数を、在来線利用及び新幹線・優等列車利用に分けて計算を行った。



### 4) 需要予測フロート計画条件の整理について

#### ■留意点

- 各パラメータについては以下の表のように設定した。

パラメータ		備考
端末交通分担率	在来線 35.2% 新幹線・優等列車 72.0%	「福井都市圏PT調査」より推定 (新幹線・優等列車の端末交通分担率については、 駅勢圏に嶺南地区及び嶺北の一部を含めて設定)
駐車場利用率	38.8%	「駅前駐車場利用実態現地調査」により算定
乗車率(人/台)	1.2	「福井都市圏PT調査」より引用
ピーク率	31.9%	「既設駐車場利用実態調査」より算定

- 既設駐車場利用実態調査より、平休比 (平日に対する休日の割合) は1.4とする。  
また、既設駐車場の月変動特性より、季節変動比は1.4を見込むこととする。

(2) 調査結果

新幹線開業後の敦賀駅における駐車場需要予測は、以下のとおりとなった。

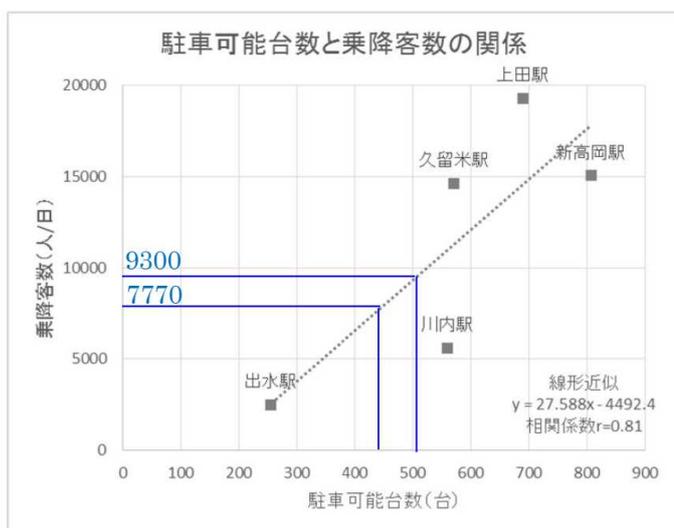
	H37 在来線	H37 新幹線等	
鉄道乗客数	3,222	1,428	人/日
自動車を利用する人数	1,134	1028	人/日
駐車場を利用する人数	440	399	人/日
駐車場を利用する車の台数	367	333	台/日
要求される駐車マス数	117	106	台
合計		223	台

駐車場に要求される駐車マス数

(平休比) (季節変動比)

$$223 \times 1.4 \times 1.4 = 437 \doteq 440 \text{ (台)}$$

■ 駐車場需要予測結果と類似整備新幹線駅との比較検討



・他整備新幹線駅（乗降客数20,000人以下）との線形近似直線をみると、乗降客数と駐車台数の間には強い相関があることがわかる。敦賀駅は平成23年時点で乗降客数は7,770人であり、これを基にした平成37年時点における乗降客数は9,300人と予測されていることから、必要な駐車場台数は概ね450台程度～500台強程度と考えられる。需要予測結果は、440台程度と算出されており、若干少なめではあるが、概ね妥当な需要予測結果となった。

	敦賀駅	出水駅	川内駅	久留米駅	上田駅	八戸駅	新高岡
駐車可能台数(台)	-	255	559	571	689	-	807
乗降客数(人/日)(H26)	7770	2483	5604	14610	19287	11071	15035
所在市人口(人)(H26)	67845	54927	97618	306333	155927	235820	67136
所在市面積(ha)(H26)	25134	33006	68350	22984	55204	30554	20957
可住地面積(ha)	5190	11668	23200	19328	16454	20317	14243
可住地人口密度(人/km <sup>2</sup> )	1307.23	470.75	420.767	1584.918	947.654	1160.703	471.3614

### 3. 基盤整備の見込み・方向性

在来線利用者と新幹線利用者との駐車場需要バランス及び駅西側、駅東側（新幹線駅前広場側）との需給バランスについては、以下のとおり整理した。



#### ■留意点

- ・駅西側の駐車場について、白銀駐車場で約50台の駅利用者への供給が見込めることから、駅西側の敦賀駅に隣接した駐車場（立体駐車場）の整備においては、その部分を考慮し、整備規模を算定する必要がある。
- ・駅東側の駐車場については、新幹線駅前広場と隣接して駐車場を整備した場合、予定地の地理的条件（新幹線駅舎と木ノ芽川との区域）から、100～120台程度整備が可能と見込まれている。

### 4. 駅西側駐車場、バスターミナル等の概略設計

駅西側駐車場、バスターミナル等について、概略設計を行った。

### 5. 今後の課題

北陸新幹線敦賀開業後の敦賀駅における駐車場の需要予測を行ったところであるが、駅西側で敦賀駅に隣接する駐車場（立体駐車場）の整備にあたっては、次のことが今後の検討課題になると考えられる。

- ・立体駐車場としての独立採算性を踏まえた適切な駐車場台数の設定
- ・敦賀駅西地区土地活用エリアの施設との接続及び駐車場の配分
- ・駅前通りとの回遊性創出など白銀駐車場との連携及び役割分担
- ・敦賀駅や敦賀駅交流施設とのアクセス性の向上の具体策
- ・駐輪場(サイクルステーション等を含む)の合築による二次交通機能の強化

今後これらについては、駅周辺の交通施策及び駐車場の詳細設計等について、十分検討し適切な駐車場台数を決定するものとする。